

令和3年6月4日

嬉野市議会
議長 田中政司 様

文教福祉常任委員会報告書

文教福祉常任委員会
委員長 森田明彦

令和3年3月定例会において付託された下記事件の調査結果を、嬉野市議会
会議規則第107条の規定により報告する。

付託事件名 ・ 児童発達支援のあり方について

調査の理由

発達障がいという言葉をよく聞くようになった。以前から様々な形で存在していたのですが、就学前の診断などが進み、早期に発見、報告がされるようになった事も一因である。このことにより、子どもの将来を心配される保護者や家族も多いと思われることから、発達障がいについて現況を学び、児童発達支援のあり方について調査を行った。

なお、今回の調査を実施するにあたり、市役所職員を対象にした、発達障がいを正しく理解する講演会を事前に受講した。

講演会 日時 令和3年3月22日（月）10時～11時
場所 嬉野市中央公民館大集会室 ※オンライン研修
講師 腹巻 智子氏

調査の概要

- 1 発達障がいとはどのようなものか。
- 2 周りの大人がやるべきことはなにか。
- 3 行政の支援として期待するものはなにか。

調査日 令和3年5月11日（火）14時～16時
場所 佐賀県西部発達障害者支援センター 蒼空～SORA～（多久市）会議室
対応者 蒼空～SORA～センター長 山浦徳子氏

研修内容

1 発達障がいとはどのようなものか。

① 自閉症スペクトラム障害 (ASD)

社会性コミュニケーション、想像力の障害⇒空気を読むのが苦手

② 注意欠如多動性障害 (ADHD)

集中が難しい、じっとしてられない、衝動的に行動する。

③ 限局性学習障害 (LD)

「読む」「書く」「計算する」などの能力が極端に苦手。

① ② ③に示すように、発達障害者支援法において、「脳機能の障害であってその症状が通常低年齢において発現するもの」と定義されている。

2 周りの大人がやるべきことはなにか。

- ・発達が間違っているということではなく、異常ということでもない。
平均的ではないかもしれないという考え方、「通常」の発達とは異なる、すなわち「少数派・個性的」と考えることが大切である。
- ・協調性を求めるだけでなく、社会も多様性を認め、理解することが重要。

3 行政の支援として期待するものはなにか。

- ・園や学校で困った行動をするという連絡に、親もどうすればいいか困っている。親の困りごとを気軽に相談できる窓口や相手を明確にして欲しい。
- ・専門分野の人材確保と研修の場を多く作って欲しい。

委員会の意見

発達障がいは外見からは判りにくく、症状や困りごとは十人十色である。「困った行動」などと捉えられがちだが、特性に合った学びの機会を用意することで、優れたところを伸ばすことができる。嬉野市でも児童発達支援等の近年の利用実績が増加傾向にあり、子どもの個性や能力・希望などを理解した上で、その子に合ったサポートをしていく環境を整備するためには、専門分野の人材の確保が必要である。そのためには、専門家を広域で有効活用する仕組みや、当事者、関係者に不安を生じさせない施策が必要である。特に行政に携わる職員等には研修の機会を増やすことを望む。

また、発達支援に関わる人だけではなく、一般社会の理解を広めることが重要なため、その醸成に行政としても積極的に取り組んでもらいたい。